

入試年度	2025 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2025 年 2 月 21 日
課程	博士後期課程	研究科	文学研究科	専攻・コース	臨床人間学専攻現代社会学専修
入試方式	一般入学試験		試験科目	英 語	

「解答」または「解答例」及び「出題の意図」

【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】

(1)

現代社会において、家族は圧倒的な存在感を放っている。保守派の論客はその衰退を嘆き、リベラル派はその強化の道を模索する。急進派は、家族に代わるものはもう求めないにせよ、家族に代わるもののモデルを追求している。よく流布している自明の理では、家族は社会の最も基礎的な単位だと見られている。しかしそれほど基礎的なものとしては、家族という概念は多様な歴史をたどってきた。誰を親戚と見なすか、そして家族をどのように定義するかは、明らかにさまざまな歴史的・文化的要因に左右される。歴史的に、また通文化的に、家族は広範な親族集団や、家族経営体（しばしば使用人を含む）や、緊密な核家族を包含してきた。今日、特に高度に産業化された西洋社会では、多くの異なった家族の形態が、多少なりとも調和的に共存しているが、それらは階層や、地理、異なる宗教的・文化的・人種的・民俗的コミュニティにより形作られ、また、選択により作られている。今日、多くの人が友人のネットワークや親族から選んだ人に基づく、自分たちの「選択した家族」について語っている。「非異性愛家族」が伝統的な「異性愛家族」と同様、多少なりとも調和的に、隣り合って住んでいる。

(2)

Social capital は社会関係資本とも言われ、人々の信頼関係やネットワーク、互酬性の規範など、社会の協調行動を促進する、関係性の豊かさを意味する。垂直的關係ではなく水平的關係が重要とされる。個人はこれから、就職、社会的地位の上昇、困窮時や高齢期など弱った時の支援を得られ、社会はこれに基づいて、地域社会の絆を強化し、民主主義の機能、治安、教育、健康、幸福感の向上などを得ることができる。

(3)

古い家族の捉え方

後期近代における新しい家族の捉え方

固定化された制度	社会的実践
名詞	形容詞や動詞
探究の対象になる物質のようなもの	構築された人間の相互行為の質や活発な

	過程
時代を超越した実体	私達が行い、生きる、 日々の実践的活動の連続
特権的な領域での単なる私的行為	特別な種類の関係的な相互行為
客観的な現象	参加している人がその意味を作り出す、 主観的な実践
男性中心的な家族の性質だった、同居、結婚、民族、義務、プライバシーの固定的な境界	近しく愛する人たちの日々の相互行為
ケアや愛情のネットワークは血筋や結婚で決まる	ケアや愛情のネットワークは私たちの交渉で決まる
家族の一員かどうかが重要	家族のことをするかどうかが重要 家族はパフォーマティブなもの
家族はその中に生きるもの	家族は私たちが生き、それをするもの。 歴史的に特定の、コンテキスト化された活動であり、他の社会的実践と緊密に結びついている。非異性愛的な日々の実践を、家族ではないと除外する論理的な理由はない。
以上	
【出題の意図】 (1) は、専門研究に必要な英語能力の読解力を審査する。 (2) は、英文中の基礎的な社会学概念の理解度を審査する。 (3) は、専門研究に必要なレベルの英文の趣旨の理解力を審査する。	
合否判定の方法及び基準	
入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。 合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。	